

会 議 録

会議の名称	令和6度第1回中野市総合計画審議会
日 時	令和7年2月25日（火） 15：00～16：10
会 場	中野市役所 会議室 42・43
出席者等	・ 委員：16名 小野良一、増田善行、阿部ひろ美、徳竹佐織、酒井久、長島敏行、小澤美津恵、深見晴彦、岡田哲也、望月隆、山田彰一、江原宏晃、沼田拓也、小池広益、間峠未希、小林正二 (欠席委員：3名 久野常志、平野正隆、鈴木誠) ・ 市出席：3名 企画財政課長、企画財政課長補佐、担当 計 19 名
次第	1 開会 2 自己紹介 3 会長、副会長の互選について 4 会議事項 (1) 第2次中野市総合計画・後期基本計画の総括について《資料1》 (2) 中野市民満足度調査の結果について《資料2》 (3) 第3次中野市総合計画策定方針について《資料3》 (4) 基本構想骨子・素案について《資料4》 5 その他 6 閉 会
発言内容	別紙のとおり

【別紙】

令和6年度 第1回 中野市総合計画審議会

令和7年2月25日（火）

15：00～16：10

会議室 42・43

1. 開会（15：00）

2. 自己紹介

3. 会長及び副会長の互選について

会長	山田彰一（信州中野商工会議所）	副会長	小澤美津恵（中野市保健補導員会）
----	-----------------	-----	------------------

4. 会議事項

（1）第2次中野市総合計画・後期基本計画の総括について 《資料1》

・資料1に基づき企画財政課長補佐から説明

企画財政課長 補佐	総括の前に、今後のスケジュール、計画の概要を説明する。 ●今後のスケジュール ・再来年度（令和8年度）、計画初年度を迎える。 ・今日が第1回総合計画審議会、5月に第2回、その後も全5回程度審議会を予定している。 ●総合計画の概要 ・総合計画は、総合的かつ計画的に市政を運営するための長期的なまちづくりの指針。また、すべての施策を網羅した市の最上位の計画。 ・全ての施策を網羅しているので、さまざまな分野の方にお越しいただいている。 ・よく、「この計画は何をターゲットにしているのか」という意見を聞くが、あくまでも全ての施策を網羅した計画ということをご承知いただきたい。 ・総合計画の構成は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」という3部構成となっている。 ・基本構想が基本理念、それから目指すべき都市像を定めるもの。今回は8年間計画を予定している。 ・基本計画は、基本構想を具現化し、将来像の実現のために必要な施策、課題、基本的な方向を体系的に整理し、具体的な施策を示すもの。4年ずつ前後期に分けて合計8年の計画。 ・中野市の将来都市像「緑豊かなふるさと 文化が香る元気なまち」は、合併した当時考えた将来都市像であり、これは中野市の根幹をなすものということ考えている。
--------------	---

	・基本計画の全体像は、お配りした冊子「第2次中野市総合計画・後期基本計画」の14ページをご覧いただきたい。全ての施策を網羅するものであるので、体系化して分けている。 ・このような総合計画の作りを前提として、議題にある総括（資料1）を確認していただきたい。 ●第2次中野市総合計画・後期基本計画の総括 ・総括について、個別の説明は省略させていただくが、資料1の見方について説明をさせていただく。 ・先ほどお話しした「後期基本計画」のそれぞれの施策の指標ごと、目標値に対する現状値（R6.6月時点）を記載してある。
委員1	・資料を見たが、よく理解できない。今説明があったが、それでも理解できない。だから、何を質問していいかもよくわからない。
山田会長	・会議を進めながら、ご理解いただければと思う。
企画財政課長	・この総括表が分かりづらい部分もあると思うが、1つ大きなポイントは、資料1の1ページの出生数について、令和7年の目標は328人と掲げていたが、実際には実績値210人。先月は200人を切っている状態というのは、大きい課題ということで総括をしている。 ・ただ、2ページの健康寿命の項目では、前回よりも延伸してきている部分もあるということで、良い部分もあったりする。 ・いろいろな事業やっているなかで、人口減ということだけは大きい総括だと思っている。
委員1	・出生数というのは、合計特殊出生数か。いくら結婚しても仕事が忙しくて子作りに励めないという方々もいる。結婚したからといって子どもが多くなるわけではない。 ・もう1点、誤解を恐れずに言うと、高齢化・長寿化したことが結局、年金などの社会負担が多くなり、出生率が下がって子どもが少ないということにつながっているのではないかと考えているがいかがか。
企画財政課長	・ご指摘のとおり、いろいろ説がある中で、今おっしゃられたことも含めて審議会の中で議論いただいて、より良い計画策定をして実行に移していきたいと考えている。
委員1	・この第2次中野市総合計画の5ページに人口があるが、これは基本的には減っている。 ・もし本当に中野市を元気にするのであれば、どこかでポイントを決めて、増やす方向に行かないと財政が持たない。財政がおそらくパンクする。 ・そのようなことは計画に全然書いていないから、戦略的と言いながら、現状に追従、追認していると直感的に感じる。
企画財政課長	・人口減少の関係については、今後もこの会で話していきたいと思う。 ・いわゆる行政改革の中で、公共施設の削減を図るなどさまざまな施策を講じているところだが、いずれにしてもこの総合計画が1番最上位の計画に

	なるので、人口減に対する内容についてもしっかりと盛り込んで、良い計画になるように努めていきたい。
委員 1	・ 本当にそういう意味なら、この人口はどこかでターニングポイントを設けないと。 ・ そういうことが全然読み取れないので、何をしているのか全然わからない。はっきり言って全然わかりません。 ・ 資料の 1 番最初に、この総合計画は最上位としながらも、人口は減っても全ての政策をやっていくと書かれている。一方、その次の部分では、戦略的に重点主義でいるんだと。 ・ 基本的にはミスマッチが起きている。全部やっていたら、人口・税金が減っているのに財政が持つわけない。 ・ それをどうやって確保するのか。そういうことが全然謳われていないので、総花的に美辞麗句は書かれているが、何をされるのかが私には理解できないというのが印象。今日はそれを確かめに来た。

(2) 中野市民満足度調査の結果について《資料 2》

・ 資料 2 に基づき政策情報課長補佐から説明

企画財政課長 補佐	・ この調査は昨年 8 月に実施したもので、18 歳以上の市民から 2,000 人を無作為抽出した。 ・ 配布数 2,000 通のうち、実際にいただいた回答 673 票、回収率は 33.7 パーセント。 ・ 「中野市への愛着」、「中野市の住みやすさ」等、いろいろな調査回答を載せてあるので、市民の皆さんがどう考えているのかということを見ていただき、次の計画策定の参考としていただければということでお示しした。
委員 1	・ これも何が問題で、何をどうするかというのが全然ない。 ・ 資料を見ても、ただアンケートした結果がこうだとしか書いていない。 ・ これに対して、市として何が問題で、何をどうしなければいけないというのがないので、総合計画と言いながら、基本戦略が全く見えていない。
企画財政課長	・ 今申し上げたのは、市民満足度調査ということで、結果報告である。 ・ 今、委員さんがおっしゃられていることについては、5 月に今後の具体的なものを含めて諮問をさせていただく。 ・ 課題を整理して、5 月にこういう計画ですということで諮問する。そこから皆様方にご審議いただいて意見を言っていただく。 ・ 冒頭の話にあったとおり、本日の会議は審議に入る準備段階という趣旨。 ・ 総合計画とは何かということと、今までの計画の総括をし、市民の方はどういった考えなのかという報告をさせていただき、5 月からいよいよ諮問をするという流れをご理解いただければ。

(3) 第3次中野市総合計画策定方針について《資料3》

・資料3に基づき企画財政課長から説明

企画財政課長	・策定にあたっての基本的な考え方ということで、目指すまちづくりを着実に実現するため、(1)目標を市民と共有することができる、わかりやすい計画 (2)将来の社会経済環境の変化に対応する、戦略的な計画 (3)財政状況に対応する、効率的で実効性のある計画にしていきたいと考えている。
--------	--

(4) 基本構想骨子・素案について《資料4》

・資料4に基づき企画財政課長から説明

企画財政課長	・資料4は、現在、草案を庁内で検討しているところ。 ・できる限り多くの方の意見を反映させていくため、今日は全くの素案ではあるが、急遽お示しさせていただいた。市長から諮問する前でもご意見を受けつける。 ・6ページの将来都市像「緑豊かなふるさと文化が香る元気なまち」については、本市の普遍的、永続的な将来都市像の実現のために、第3次についても変更なく掲げていきたいと考えている。 ・7ページ、目標人口についても、しっかり庁内で議論をする中で皆様方に諮問をしていきたい。 ・8ページ以降は、内容をご確認いただき、「市役所では現在の課題の捉え方が違うんじゃないか」や、「大綱でももっと踏み込むべき」といったご意見もいただけたらありがたい。 ・どうしても総合計画は、総花的で具体性に欠けるということは指摘されているが、そんな中でも少しでも踏み込めればいいと考えている。
委員1	・これは、まちづくりの基本計画ということよいか。先ほどから総合計画といわれているが、「総合」と言うから良くないように感じる。 ・総合といったら、いろいろな寄せ集めみたいな感じがする。だから、あくまでも基本戦略、基本政策。基本政策で1本に絞ったら良いと思う。 ・都市計画とか、都市の話が出てくる。これも非常に異な感じがする。東京のような大都会を目指しているのだという印象を受ける。基本的にまちづくり・市づくり。 ・中野市のオリジナリティを反映するという話があったが、それを追求していくと、基本的には国の政策とバラバラになる。そういうことは全然謳われていない。 ・国は過疎法によって過疎対策はもう半世紀も続けてきている。その中には、いわゆる地方の地場産業の育成であるとか、若者が出ていってしまうなどの話があって、基本的に地方から大都市に人材を送って我が国は成り立っていた。 ・だから基本的に、地方が疲弊すれば都会も疲弊する。結局は都会もダメになるし、国そのものが、ダメになって衰退していってしまう。 ・だから、基本は田舎がしっかりしていないと世の中全体がおかしくなっ

	しまう、それが今の状況じゃないかと思う。 ・それから、資料の中に、「デジタル田園都市」という言葉があったが、今から計画していく計画に「都市」という言葉を使うか使わないか。基本的にはまちづくり、市づくり。都市づくりと言ったら、大都会を目指すように感じる。逆行しているというか、うまく説明すれば良いのかもしれないが、そういうことは全然わからない、私には。皆さんも多分そうだと思う。 ・市長が今度諮問の時に説明されるということだが、トップの方針は大事。 ・それを細かくやっていくのが行政。そういうことが全然読み取れない。 ・そういう意味で、本当に大丈夫かなという、どうしてもマイナスなイメージを持ってしまう。 ・3～4年前に北部公民館で都市計画像について説明会があったが、そういうことも含めて、なかなか理解できない、10年経っても理解できない。 ・表現の仕方というかまとめ方というか、力を注ぐのはどちらの方向だということがわかりづらい。
企画財政課長	・まず、総合計画というものはどういうものかということをご理解いただければと思う。 ・資料4の8ページに、まちづくりの方向性、政策の大綱ということで、「将来都市像の実現に向けて、具体的な政策分野の基本方向を明らかにし、計画的かつ総合的なまちづくりをし、推進する」と書かれており、市の全ての分野の総合計画を作らざるを得ない計画。 ・都市マスタープランなどの各種計画は、この総合計画に基づいて作られているもので、会議の冒頭お話ししたとおり、ホームページ上だけでも55の計画がこの総合計画を受けて、具体的な計画を作っていくというもの。 ・言葉が適当かわからないが、例えば先ほどデジタル田園都市構想というような名前が出たが、計画の中には、市が当然取り組むべき計画もあるし、国等の補助金や交付金をもらうためにこういう計画を策定しているものもある。 ・市民生活から離れている計画もある中で、まずはとにかく市のあらゆる計画の上位に位置づけられて、どうしても総合的な計画を作らざるを得ない。 ・そのようなことも踏まえて、今後の審議をお願いしたいと思う。
委員 1	・今の納得しているわけじゃないが、今日この席で長々言ってもあまり効果がないということで、今後審議会の中で話していきたい。 ・要は、何々分野の基本戦略で、それを横断的に進めていくと。総合というとなんでもかんでも見ちゃって、結局は重点がわからないという印象を受けている。
委員 2	・私も実は長野県職員で5か年計画を作るということをやっていた。 ・委員がおっしゃるような総花的であるっていうご指摘はとてもよくわかっていて、それに対して市の企画財政課長が、おっしゃっていることもよくわかる。

	・ 1 つは総合計画とは何かという話で、確かに最上位の計画だという説明のとおりだが、私自身どういうつもりで県の計画を作っていたかという、当然ありとあらゆる政策をラインナップする場であるが、1 つはその時の時代認識というか状況認識を、それは行政としての県であったり、この場であれば、中野市が今の時代背景をどう捉えるかっていうのははっきりまず見せる。そして、そこに対する政策っていうのは、多分総合と言おうが基本と言おうが、ありとあらゆるものを網羅する。 ・それは、こっちをやってここをやらないっていう批判もあるので、行政としてはどうしても網羅しなければいけない。 ・ただその過程で、5 か年計画や長期構想を作るときに、行政がやっている仕事を 1 回棚卸しして、現在の時代認識に合わせていく。 ・中野市として 1 回棚卸しして整理してみて、お見せするっていうのが総合計画的なものだと考えてやっていた。 ・ちょっと噛み合っていなかったのが、最上位の計画であり、その下に 55 個の計画ぶら下がってという、その形式的な説明というよりは、理解していただくのであれば、行政としての意味は棚卸しする作業ですと。 ・それを書いてあるとおり、分かりやすく市民の皆さんにお見せするためのプロセスですよっていうのが 1 つだと思う。 ・あと、まちづくりというのが、都市づくりなのか市づくりなのかっていうことは、言葉の問題だが、市づくりっていうのは、多分語感が悪いので、それをひらがなでまちづくりと言っているのだと思う。 ・これは別に村を排除しているわけではなく、かつ大都市を目指している町づくりでもなく、ひらがなのまちづくりなので、広く考えれば市をどうしてこうかっていう意味でのまちづくりって考えていただければいいかなと思う。 ・それから、質問だが、今回の計画なり基本構想って、市としての基本的な政策を示してく部分ということであると思うが、素案草稿を見ると、将来都市像は合併の時に作ったもので、普遍的なものだと伺っているが、そこから下の基本政策が 6 本立っているが、これはそのまま踏襲するのか、それとも変わりうるものなのか。
企画財政課長	・ 6 つの基本政策については踏襲しているという風に考えている。
委員 2	・総花的に県の計画もそうなりがちだが、今の時代認識をどう捉えるかということに対して、政策の組み方はある程度変わっていてもいいのかなと思う。 ・それは時代認識に合わせて変えていく話で、例えば今、人口の話で言うと、今仮に出生率が 2.5 になったとして、その効果が出てくるのって、子どもが大人になって、その子どもがまた子どもを産んでからだから 60 年ぐらいかかる。 ・この計画期間中は、人口が右肩下がりは大前提にならざるを得ないので、人口構造にとってみても、人口が減っていくので、それをどう捉えて基本政

	策を組み替えたとか、人口だけじゃなくていろんな、例えばインバウンドが世の中では増えているけど、それを中野市としてはどうやるとか。 • 例えば時代認識で言うと、グローバル化って昔から言っているが、アメリカの問題あり、ウクライナの問題あり、なかなか不安定だという。そういうことを踏まえて市としてどう対応していくかとか、組み立ててやっていくのが良いと思っているというのを示すのが基本構想の政策の柱になってくるのだと思う。 • いろんな検討した結果、第3次と同じですっていうのが良いと思うが、第2次、第3次の課題認識と基本構想が全部同じだと、基本計画作ってなんなんだって最初の疑問にもなってしまうと思うので、絶対変えなきゃいけないわけじゃないが、そのプロセスを見せていくのが大切なのかなと思う。
委員 1	• 今の話で、第1をやって、第2をやって第3に移るときに、今までのできなかったことは何が原因でできなかったか、社会の状況はどうなってくるかということを踏まえて、第3次はこういう方向でいくという話はよくわかる。 • その時に、この中野の強い部分、弱い部分、いろいろなことをここで棚卸しをして、新しく考え直して、再組み立てをして、どうやるかということを市民の方に言えば、市民の方も、私も多分も理解を示すと思う。
委員 3	• 私も思っていたことを言わせていただきたい。最初にアンケートだとか、いろいろな達成率のような結果の説明があったと思うが、それは何のためにあるかっていうと、やっぱり第2次の結果、どんな成果があったり、どんな課題があるかっていうことを数値的に表したり、声として拾うためのものだったと思う。 • ただ、それがわかりにくかったのは、ここは課題で、次の第3次では重点的に改善していくべきだろうっていうような、そういう考察みたいなものがあればもう少しわかりやすいのかなと思う。 • それを踏まえて第3次の計画を練っていくときに、先ほど県の方が言われたように、時代が変わってきている。例えば、教育現場で言わせていただくと、部活動等が地域移行になったり、生涯学習が非常に一般的になったり、コミュニティースクール等が入ってきたりっていうことで、少し前とはだいぶ様子が変わってきている。 • そういうふう考えた時に、この1番から6番までの柱には異議はないが、例えば、1番の「未来のふるさとを担う子どもたちを育むまちづくり」の次に、「ふるさとを学び育つ文化のまちづくり」で、いわゆる生涯学習に当たる部分も、続けていったらどうかなと感じる。 • 学校教育と生涯学習や地域学習が密接になってきている時代だと思うので、そのところは、離れているのが違和感。もうちょっと一緒にならないかなという感じを持ったので、そういったところを、同じ柱を立てるにしても、背景を考えて、少しアレンジするっていうのが、この次はあってもいいのかなと思う。

企画財政課長	・各委員からご意見いただいたとおり、棚卸的な部分、これは本当にそのとおりであるので、しっかり課題を整理して対応していきたいと思う。 ・また、この計画作りに最も大事と言われているプロセスで、今までワークショップをやったり、市民参加などいろいろやりながらこの計画作りをしていた部分があるので、もう一度初心に戻ってプロセスをしっかり大事にして取り組んでいきたいと思う。 ・また、課題に対する考察について、資料的にわかりづらい部分があったりとかもするだろうし、庁内の議論がまだまだこれから本格化して、皆様方に諮問するような形になるので、この6つのまちづくりの視点を再度検討し直して、皆様方に自信持って諮問できるようにしていきたいと思う。
委員 2	・偉そうなことを言って申し訳なかったが、県も5か年計画を作っているが、多分皆さんそんなにご存じないと思う。そこの至らないところは申し訳なく思っているが、実はそんなに簡単じゃなくて。 ・企画財政課長も心配されていると思うが、課題をしっかり整理することはすごく重要だが、例えば今日料理作って失敗しました、切り方まずかったとか、火をかけている時間が短かったとか、原因が簡単にわかるのだが、行政の仕事やどんな仕事でも、いろいろな要素が複雑に絡んでいるので、すっぱり簡単に割り切って、あれが原因で、これをやれば次に解決するっていう風にはなかなかいかない。 ・県がしっかりやったみたいな話をしてしまったが、苦しみながらやっている。 ・中野市も相当な議論されてすごく単純な形にして出していると思う。それはわかりづらくなって感じになると思うが、そこはあまり過度な期待はしないでいただければ。 ・ただ、庁内の議論、それから市民の皆さんに対する説明っていうのは相当力入れてやられると思うので、そこは見ていただいて、出てきたものがわかりづらいついていうのは確かにあると思うが、そこはご理解いただければと思う。 ・県も必ずしも100点の内容で対応できているわけではない、そこは言わせていただきます。

5 その他 次回開催予定 令和7年5月開催予定

6 閉 会 (16:10)